

視察報告書

報告者氏名 藤井 俊行

1 会派名

流山みらい

参加議員：うた 桜子 西尾 段 藤井 俊行

2 期 間

令和6年7月26日（金）14：00～16：30

3 観察地及び観察項目

- (1) 流山市立中野久木保育所について
- (2) つばさ学園（児童発達支援センター）について

4 所感等

- (1) 流山市立中野久木保育所について

■所長より館内外を案内していただいた。丁度、子ども達がお昼寝時間ということで、子どもの活動は見ることができなかったが、保育士3名から生の声を聞くことができた。

朝7時から19時までの勤務となり、シフトづくりが大変であると感じた。以前は、延長保育担当の会計年度任用職員の保育士がいたので対応に余裕があったが、退職後は厳しい状況とのことであった。担当課にも保育士の補充を依頼しているが、補充されない。過去には私立では、正職員に対する就職祝い金など手厚い対応で採用していたこともあるので、そのような保育士を公立の会計年度任用職員と同様の待遇で採用するのは難しいと思われた。

また、長く座っていられない多動性などの発達障害の子どもの数が以前は学年に1人くらいであったのが、今は4～5人と増加傾向にあり、対応できる職員の数が足りていない。

また、両親ともに日本語が得意でない家庭が増えてきており、重要な話をする時に不安がつきまとう。「保護者面談の時だけでも保護者側の言語や文化が分かる人に立ち会ってもらえると安心できる」との意見があった。

■設備的な課題として以下の点が話題にあがった

- ・2階の乳幼児室の窓は、大雨の際に、風向きによって雨が吹き込んでしまう。市に依頼しても対応されない。
- ・玄関を出た所の浄化槽のにおいが気になる事がある。特に休日は、下水のにおいが強い。
- ・水道の配管が古いせいか水道水が美味しい。一部でも浄水器を取り付けられると良いとの話が出た。
- ・私立では、台車等も活用してお散歩の時間があり外遊びや日光浴ができるが、公立は、交差点での園児の事故以来禁止となっている。私立はできるのに公立では禁止ということには理解できない。
- ・子どもが利用するトイレの便座が、1事業所のみ保温便座となっている。今や多くの家庭では洗浄便座であり、保温できるのは当たり前となっている。早期改善が必要。

(2) つばさ学園（児童発達支援センター）について

所長と係長に対応していただく。ここでも保育士の採用が大きな課題となっている。資格者は正規職員となるが、保育士は会計年度任用職員のため民間に競争力で勝てないようだ。

■障害の重さは、増配規定よりも多くの人材が必要となる。手帳の交付者であれば、加配対象となるが、保護者の中には手帳の交付を嫌う方も多い。

■私立で受け入れてもらえない利用者にとって、公立だからこそ受け入れられる事もある。そこで存在価値を高める事で施設を存続していく感じた。

以上